

アルプスヤガ

Xestia speciosa (Hubner)

チョウ目ヤガ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

選定理由

中部山岳では高山帯にのみに分布し、白山がその西限にあたる。また、白山産の個体群は他産地と比べ、外部形態が特異的である。

形態

大きさは開張40mm前後である。後翅は一律に灰白色である。前翅は通常、黒褐色の鱗片を密布し、黒っぽく見えるが、白山の個体は赤褐色の鱗片で被われているため、赤褐色味の強い個体が90%以上を占め、特異的である。

国内分布

北海道および本州の中部山岳地帯を中心として2,000m以上の稜線部に分布し、南限は荒川岳、西限は白山である。

県内分布

白山の標高2,400m以上の室堂平と千蛇ヶ池付近で記録があるが、2,000m付近では得られておらず、亜高山帯には生息しないようである。

生態

成虫は年一回、7月から8月に発生する。野外における食草としてコケモモが知られているが、詳しい生態は不明である。

生息地の条件

標高2,400m以上の高山帯で、ハイマツ群落内に多様なわい性低木の群落が形成されていることが重要である。

生存の危機

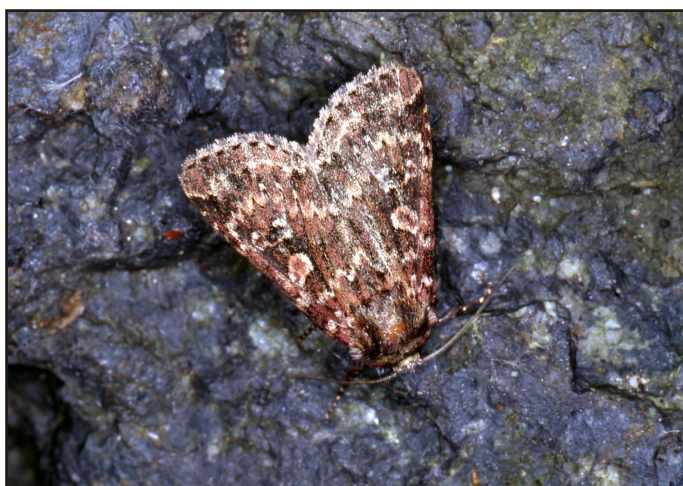
全国的にみると白山における本種の生息域はきわめて狭く、孤立している。温暖化や踏みつけによる自然植生の破壊は、生息環境の悪化を招く。

特記事項

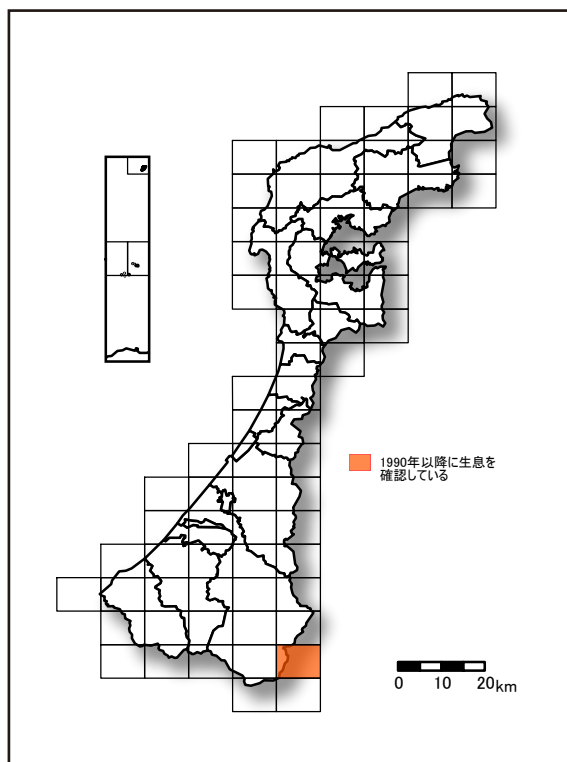
白山の個体は赤褐色味の強い個体がほとんどで、飛騨山脈等の個体群とは異なり、地理的に隔離されたものと考えられ、貴重である。本種の生息地は白山国立公園の特別保護地区内にある。

参考文献

神保一義 1984. 高山蛾. 191pp. 築地書館. 東京
大和田 守・富沢 章 1985. 白山高山帯の蛾相. 国立科学博物館専報, 18 : 199-208.



写真提供者: 富沢章



県内の分布